

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600077		
法人名	株式会社ユニマットそよ風		
事業所名	やちよ台ケアセンターそよ風 (なごみユニット)		
所在地	千葉県八千代市八千代台南3-2-32		
自己評価作成日	平成27年3月2日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様、家族、職員、地域の方々と支え愛ながら、暮らし続けられる。 ・職員、サービスの質の向上の為、研修参加。 ・地域の方との交流を深めるために、餅つき大会、フリーマーケット等の行事にも力を入れております。 ・季節を感じていただけるような、四季折々の行事や個々の要望に合った外出も多く取り入れております。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成27年3月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>なごみユニットのスローガンとして年度初めに職員全員で決めた「セカンドファミリー・愛言葉はスマイル」を掲げ、職員間で共有しながら取り組んでいる。今年度も前年度に引き続き、併設する他のユニットと合同で餅つき大会やフリーマーケットを開催し、近隣に前もって通知することで近隣からの来場者や家族の参加につなげることができた。また、ボランティア(大正琴・健康体操・バイオリン・三味線)の方を受け入れ、事業所の地域とのつながりや交流の度合いが年々増加している。今後に向けては、定期的に開催している運営推進会議に地域住民の方の参加を促す事で、地域との連携がより深まっていくと考える。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「セカンドファミリー・愛言葉はスマイル」をユニット理念に掲げ皆で共有し支援している。	法人のそよ風憲章のほか、ユニットスローガンとして年度初めに職員全員で決めた「セカンドファミリー・愛言葉はスマイル」を日々確認し、共有して支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年の恒例行事として、餅つき、フリーマーケットを開催し、地域住民と交流を図っている。	併設する他のユニットや施設と合同で開催した餅つき大会やフリーマーケットには、近隣に前もって通知し、近隣からの来場者や家族の参加につなげている。また、ボランティア(大正琴・健康体操・バイオリン・三味線)の受入を実施し、事業所の地域とのつながりや交流の度合いが増加している。	今後に向けては地域行事への参加も増やしていく事で、さらに地域とのつながりが深まっていく事考える。今後の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護初任者研修等の受け入れを行い、認知症、高齢者への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、参加して下さった方からの、ご意見、要望等をサービス向上に繋げられるよう職員にも伝えている。	運営推進会議には 地域包括支援センター、民生委員、介護相談員、家族(出席は輪番制)の出席を受け、2カ月に一度開催している。運営状況等を定期的に報告し、質疑応答や話し合いを通じての意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議に近隣や自治会の方々にも参加を促し、より多くの意見を収集し、サービス向上に活かしているように取り組まれることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には、定期的に待機者情報を報告し、事故等あったときには、速やかに報告をしている。	市町村担当者とは日頃から連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えたり、また、運営推進会議の議事録を送付している。運営上疑問が生じた際には、確認を取りながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務中拘束に対する発言が、職員の間でも聞かれる事があり、常に意識したケアに取り組んでいる。	ミーティング時に「身体拘束の廃止について」話し合い、管理者及び職員は身体拘束廃止について正しく理解しており、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。必要な方にはセンサーを使用しているが家族に同意を取り、適切な対応を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待防止に努めている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業と成年後見制度の関係資料回覧程度で、活用までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り、細かく説明している。特に、起こりうる事故等のリスク、看取り、退去解約は十分に説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催や介護相談員の来訪にて利用者、家族からの意見、要望を伺えるようにしている。	家族からの意見、要望を聞く機会を来訪の際(運営推進会への出席、イベントの開催)、電話連絡時、ケアプラン説明時に設け、それらを運営に反映させている。また介護相談員にも来訪頂き、利用者からの意見や要望を収集している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センターでの全体会議、本社グループ間での協議会にて、随時提案し、検討している。	管理者は定期的を面談を実施して運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日常的に管理者は職員に声をかけ、ミーティング時にそれらの意見や提案を交換し、吟味して運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間3回の人事考課、随時面談を行い、各自の状況把握に努めており、向上心をもって働ける環境作りをつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内では、OJT研修を随時実践している。そよ風グループとして毎月グループホーム協議会を開催しており、各センターでの報告・検討会を行い、持ち回りでのテーマを決めての研修を実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八千代市で定期的に行われる研修案内を回覧し、参加出来る体制をとっている。研修参加後は、各ユニットでの会議にて研修を行い、情報の共有化を図っている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人に会いお話をさせていただき安心して利用いただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯やこれからの要望を伺い、センターとして、家族の方と一緒にどのような対応が出来るか話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等把握し必要とする支援に繋げられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を、共に行い感謝の気持ちを、伝えあえる関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子を伝え、情報共有に努め協力関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に通う等、家族の協力も得ながら対応している。	友人の来訪や近隣の理美容に外出、家族と一緒に墓参りへ出かけるまで、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族等の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性も踏まえながら、時々席替えをし色々な方と交流が図れるよう支援している。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方から、はがきをいただき連絡を取っていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いを汲みとり、家族にも話をうかがいながら検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握は、日常的な会話から引き出したり、家族の方にも意向等を確認している。その把握が困難な場合は、本人本位に検討し、実行している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に本人家族からの情報をいただいている。又、入居後も会話や関わりの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況を、記録に残し、申し送り等で現状を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化に応じて家族、職員等で話し合いを行い、現状に合った介護計画を作成している。	アセスメント結果を踏まえ、ケアプランの原案を策定し、担当者会議において職員、家族、本人の意向を収集し、総合的な意見を踏まえケアプランを策定している。ケアプランの内容については3ヶ月毎にモニタリングを行い、達成状況を確認している。	今後に向けては担当者会議に主治医や看護師等の意見等についても盛り込み、他職種連携でケアプランを作成できると良いであろう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に日々の様子や状態を記録し職員間で情報共有を行い、必要に応じて計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の思い、状況等把握し必要とする支援に繋げられるよう努めている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、介護相談員に、来所していただく事で地域情報を取り入れながら楽しんで生活出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を受ける方とかかりつけ医に受診される方とおり、どちらも生活状況を報告させていただき適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者が適切な医療を受けられるように提携先医療機関による往診(2回/月)がある。また担当医とは看護師を通じて24時間連絡が取れる体制を整えている。他のかかりつけ医を継続して受診している方には、家族の協力を得て適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化のある時には、看護師に電話連絡相談をし指示を仰ぐ。必要に合わせ、訪問診療行いドクターに繋げて下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、早期退院に向け関係者との情報共有に努め、退院前には退院後のケアについてDrからの説明に家族と同席させていただき、安心して元の生活に戻れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診Dr、家族、事業所で今後の方針を話し合いグループホームでは何が出来るかを説明し同意書をいただいている。	契約時に「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」や「看取り看護・介護に同意書」を交わし、早い段階から利用者・家族と話し合いを行い、事業所でできること、医療の必要性が生じた場合の対応等を十分に説明しながら方針を共有し、重度化が見られる場合は、家族や主治医と連携を深め対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的訓練は行えていない。 緊急時マニュアルは作成し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、消防署立会いのもと消火、通報、避難誘導の訓練を受けている。備蓄品に関しても、順次揃えている。又、餅つき、フリーマーケット等で地域の方々の協力が仰げるよう継続して行っている。	4月に地震想定での避難訓練、12月に火災想定で通報・避難・消火訓練を消防署立会いのもとで実施している。災害に備え、飲料水や米、乾パンを備蓄用保管庫に数日分確保している。	災害発生時において家族にどのように利用者の安否を報告していくか、メールや緊急伝言ダイヤルの活用も視野に入れ連絡体制の構築が進むことに期待したい。

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本は、敬語対応だが状況に応じた、和やかな雰囲気の声掛けも大事にしている。	利用者一人ひとりのライフスタイルや価値観を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを心がけ、居室への出入りにも配慮している。万一、不適切な言葉かけや接遇を見かけた管理者や職員はその都度注意することを励行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で表情を読み取り声掛け行い、思いを聞きとるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等センターの都合で決めている事も少なくないが、その方のペースに合わせお話をうかがいながら支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひげそりやヘアセットなど、今まで行ってきた事を継続して行えるよう見守り、支援行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳等を職員と一緒に手伝っていたいている。又、月1回郷土料理を提供し皆で、メニューを考え楽しみを持てるようにしている。	食事の準備では、利用者にも声を掛け、宅配で届いた食材の仕分けや盛り付けや配膳、食器洗い等に関わることができるように支援している。食事を楽しむ工夫としては、行事食や月1回の全国から選んだ郷土料理を開催するなど工夫を凝らして実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態等その方の状態に合わせた提供を、行っている。変化ある際は、状況に合わせて対応している。毎食の食事量、水分量も記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施。利用者に合ったケアを行い清潔保持に努めている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、状況を把握しながらトイレでの排泄に繋がられるよう支援している。	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を排泄チェック表(グループホーム体温表)によりチェックし、定時の声かけや誘導により、トイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の働きを良くするために、毎朝ヨーグルトや乳酸菌飲料を提供。 体操等で体を動かす事も含め、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	センターの都合で支援させていただいている事も少なくないが、音楽を流しながら、入浴剤の活用で楽しみながら入浴出来るよう支援している。	一人ひとりの入浴状況を把握しながら、週3回入浴できるよう支援している。また、入浴を楽しむことができるように音楽を流したり、入浴剤を活用したり、季節のゆず湯や菖蒲湯を用意するなど工夫し、入浴中は職員が介助につき安全面にも配慮して個々にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせて日中30分～1時間程度の休息を取り入れている。又、音楽を流し安眠して頂けるよう対応している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ケースファイルに服薬指示書をファイリングしており、服薬変更の際には必ず申し送りにて情報の共有化を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事で役割を持ち、張り合いある生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な家族との外出支援や嗜好品の買い物に外出している。	日常的な外出支援としては、個別にホーム周辺の散歩に出かけたり、嗜好品の買い物やおやつ外食に利用者と一緒に出かけている。普段行けないような場所には家族と協力しながら外出できるように支援している。	

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事により、安心感を得られる方もいるので、家族と相談のうえ少額の現金を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から手紙が来た時には、返事が出せるよう声掛け対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には、季節に応じた制作物等掲示して温かみある居心地の良い空間を作っている。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮され、利用者の日々の様子や行事での様子をとりえた写真を掲示したり、行事や季節に合わせて装飾を工夫する等、生活感や季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	余暇時間は、お好きな場所にて過ごせるよう見守り行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、自宅で使い慣れた物を置き、安心して生活出来る空間を本人や家族と相談している。	居室は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものを活かして、なかには自分で描いた絵や写真など飾り、居室内において居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内に手すりをつけ、歩行の際にも危険となる物は極力排除し安全で自立した生活が送れるよう支援している。		